

## 平成27年度平塚市子ども・子育て会議（第3回） 会議概要

日時：平成28年3月17日（木） 16時10分～16時50分

場所：平塚市中央公民館 大会議室（3階）

### 1 議事

#### （1）部会開催状況について

本議事について、事務局から次のように説明した。[資料3-1]

##### 「1 子ども・子育て支援事業推進部会

子ども・子育て支援事業推進部会は、本日、委員11名出席で開催した。

子ども・子育て支援事業の点検・評価を行った。

子ども・子育て支援事業計画については、平成27年度から平成31年度の5年間を計画期間としており、計画内容と実態に乖離が生じた場合は、計画中間年の平成29年度に計画の見直しを行うこととしている。各掲載事業について毎年点検・評価を実施する。

今回は、子ども・子育て支援事業計画1年目である平成27年度の各事業に対する担当課の評価に対して、部会委員から意見や質問をいただいた。あらかじめ、各事業の担当課が作成した評価シートを送付し、御意見、御質問をいただき、事業に対する担当課の考えを述べた。いただいた御意見については事業推進の参考にする。

今年度の事業評価や教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策の進行管理については、今年度の実績が確定した後、公表する。

##### 「2 公立園の在り方検討部会」

公立園の在り方検討部会は、本日開催し、委員10名のうち8名が出席した。

公立幼稚園及び公立保育園の今後の方向性として、現状や今後の方向性を話し、今後の公立園の在り方について委員から意見をいただいた。

平成24年10月の平塚市幼保一元化に関する検討会による中間報告では、公立園15園（公立幼稚園5園、公立保育園10園）を8～10園に再編するとした。現在の状況は、港幼稚園と須賀保育園を統合した（仮称）港地区認定こども園を平成29年4月に開設するため、建設工事をしている。また、公立の金田保育園を今月末に廃園し4月からは民間保育園として運営を開始する。今後は、施設の老朽化や耐震補強対策の観点からも土屋幼稚園と吉沢保育園を統合して（仮称）吉沢認定こども園を整備する予定。また、花水台保育園を廃園として、民間資本による整備を考えている。

【質疑応答なし】

(2) 特定教育・保育施設にかかる利用定員について

本議事について、事務局から次のように説明した。[資料3-2]

子ども・子育て支援法第31条では、認定こども園、保育所及び新制度の給付対象の幼稚園については、給付の対象施設であることの「確認」をする際に、市町村が利用定員を定めるものされている。利用定員とは、施設を設置した際に設ける認可定員とは別に設ける定員で、この利用定員の人数に応じて、市から施設への給付額の単価が異なる。そのため、施設の実態にあった適切な給付単価を設定するために実利用人数にあった利用定員を設定することが求められている。

この利用定員を定めようとするときは子ども・子育て会議の意見を聴くものとされている。平成28年度から新たに利用定員を設定する施設として、育英幼稚園、大野幼稚園、さなだ幼稚園、平塚めぐみこども園、サンキッズ金田ほいくえんについては、1月14日の子ども・子育て会議において、既に審議していただいた。

今回の会議では、新たに利用定員を設定する施設として、分園から本園への変更を予定している湘南きらら保育園について協議し、併せて、既存の施設で利用定員を変更する施設のうち、これまでの会議の中でまだ御報告していない港幼稚園について報告する。

【質疑応答は次のとおり】

委員：港幼稚園はなぜ減らすのか。

事務局：民間幼稚園の状況を見てみると、平成27年5月1日現在定員に対して66.1%の園児数である。保育園の状況は待機児童が増えている。待機児童対策として保育所の枠を増やし、幼稚園の枠を減らしている。

委員：分園である湘南きらら保育園は今年度から分園としてスタートして、2年間やって、分園から本園になるのは計画的移行なのか、何か別の理由があるのか。

事務局：大野地区は平塚市で一番待機児童が多い地区であり、そこに新しい施設を作らないといけないというのが市の考えであったので、大野地区に分園を作っていただいた。早く多くの保育園を確保するという分園であった。保育園本園を設置する場合は、認可申請が必要であるが、分園設置の場合は変更申請で設置ができ、早くできるということで分園を整備した。分園を運営する中で本園に切り替えたいという考えがあったものであり、当初から本園への移行を予定していたわけではない。

(3) その他

地方創生における少子化対策関連の取組について、事務局から次のように説明した。

地方創生における少子化対策として昨年2月に国の補正予算が成立した。平塚市は新規事業ではなく、既に行っている民間保育所助成事業における一部資金として国から補助金をいただいた。本補助金を使って行った事業に対して、なんらかの会議の場で説明して、何か意見があればそれを吸い上げてほしいという話が国からあった。市として民間保育所助成事業の中で、0、1歳児クラスへの保育士加配（延べ200人以上）に対する助成ということで、その予算額145,046,000円のうち73,367,000円を補助金から充てた。子ども・子育て会議の審議事項というよりも広く意見をいただく場としたい。

【意見等は次のとおり】

委員：たいへん良いことであると思う。保育士が増えるということは、安心して子どもを預けられることだと思う。こういった助成が単年度であるならば、補助金がなくなった途端せっかく増やした保育士が減らされてしまうのであれば元の本阿弥なので、長期間助成事業が続けばよいと思う。この助成事業は単年度か。

事務局：おそらく単年度だと思うが、機会があるごとに使っていきたいし、来年度もあれば使っていきたいと考えている。

委員：先ほどの説明では、半分を市が出しているということによいか。

事務局：民間保育所助成事業は国、県の補助金が入って事業を行っている。民間保育所助成事業の一部にこの補助金を充てている。

委員：これは平成27年度の事業ですよ。物は単年度でもどうにでもなるが、人だけはどうにもならない。入所している0、1歳の子どもたちの処遇が低下しないように御配慮をいただければありがたい。

事務局：意見があったことをしっかりと国へ伝えていきたい。

委員：助成事業のお金の使い道は具体的に保育士を雇うためのお給料になるのか。

事務局：そういう部分に充てさせていただいた。民間保育所助成事業はいろいろなものに助成しているので、それらの1つに充てるということ。

委員：この補助金は新しい人を雇うということにすぐにはつながらないのか。

委員：具体的には0、1歳児クラスの保育士配置を国の定数より上乗せしている部分に対するものなので、採用していなければ補助金は入らない。子どもの処遇にかかわってくるものであり、国の定数より上回って雇用ができるので、平塚市がこれをやってくれるのはたいへんありがたい。なくなると抱え込んでしまうことがある。上乗せ分はいなくてもよくなるので、いな

くなると0、1歳児の処遇が低下する。これだけは避けたい。助成はありがたいのでぜひ継続してほしい。

委員：保育士の給料があまり良くないということをニュースで聞いていて、新たな雇用も大事だと思うが、保育士が退職されてしまうと困るので、給与体系にたどりつくようなものになっていくといいなと思う。

委員：仕事の業務内容がたいへん多く、給与は増えないが、やらなければいけないことが多い。その辺りを見直すことによって、できるだけ負担を軽減していき、長く勤務できるようにはしている。需要と供給の関係がものすごくバランス悪い。保育士が雇用できないと児童を入所させられないという大変苦しい状況にある。子どもにも保育士にも良い処遇をしてあげたいと思う。

委員：とても良い施策なので、機会があるごとに国に要求してください。

出席者：落合委員、酒井委員、黒田委員、中村（千）委員、成田委員、鷺尾委員、山口委員、長谷川委員、島崎委員、弘中委員、七戸委員、澁谷委員、鈴木委員、本田委員、阿部委員、松本委員

傍聴者：なし

事務局：健康・こども部長、保育課長、教育総務課長、保育課6名、教育総務課2名、企画政策課2名

以 上